

ACT NEWS

エー・シー・ティー ニュース

お久しぶりです！ACTニュース編集部です。今年度は今年度でいろいろありまして、年1回の発行となりました。当然、内容も盛り沢山ですので、さっそく1年間のACTを振り返っていきましょう！

ACT NEWS 第8号 2022年3月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

「あそんだ地図」



2021年5月25日(火)に1年生のみなさんと。

1年生の1回目は「あそんだ地図」。小学生の頃に「誰と、どこで、どんなあそびをしたか」を思い出しながら自分なりの地図を描き、最後にそれをグループ内で発表しあいました。生徒たちからは「いつもはあんまり自分のことを話さないけど、今日はみんなに言えて良かった」「意外と同じ経験があったり、あそぶ場所が違ったりあそぶ方法も違うんだな—と思った。色々なことを思い出せて楽しかった」「今思うとあの時食べた実は体に害はないのか気になる」など、微笑ましい感想が多くありました。

「描くをかさねる」

今年も3年生1回目は「描くをかさねる」でした。2人1組のペアになってオイルパステルで1つの絵を描いていきますが、ちょっとした手順があります。まず交互に1本ずつ線を引いていきます。その時、相手の線と自分の線を交差させること。これを計6本描きます。次に交差した線によって生まれた形にこちらも交互に色を塗っていき、時間が来るまで色を重ね続けます。この時、相手の「つもり」を想像して塗る形や色を選んだりはしません。つまり「忖度しないで描く」ということ。どうすればこの絵がよくなるか？ということに集中してね、と伝えてから作業をしてもらいました。



2021年6月11日(金)に3年生のみなさんと。

「マシュマロ・チャレンジ」



2021年6月29日(火)の2年生のみなさんと。

お待たせしました！2年生の1回目は6年生の時に実施できなかった「マシュマロ・チャレンジ」。グループで相談をしながら仮説を立て、スパゲッティの建築物を作ります。そして、その頂上にマシュマロを乗せてその高さを測ります。これは世界中で行われているワークで、最高記録は99cm。トライ・アンド・エラーをテーマに「上手くいくか分からないけどまずはやってみよう」「上手くいかなかったらやり直そう」という小さな失敗と挑戦を楽しみながら積み上げていきました。

「フロッターージュ」

1920年代にフランスで始まったシュルレアリズムの絵画技法の1つであるフロッターージュ。簡単にいうと表面の凹凸を紙に写し取っていく技法です。このワークではベニア板と植物をフロッターージュします。表現をしようとしないうこと。上手く描こうとしないうこと。自分を消すほどに集中し、目の前のものと丁寧に向き合うことで、はじめて見えてくるものがあります。今年は史上初の3学年で実施！生徒は何を感じたでしょうか。

「誰ともしゃべらずにとっても静かな時間を過ごしながらただ目の前のことに没頭して作業した。自分の1つ1つの動作が紙に表されていて面白かったし、不思議だなと感じた」「少しずつ集中して、身体は動いているけど意識が抜けていくような感覚があった」「集中しすぎて頭に何もなかった」「静かだなと感じた。静かなところで静かに何かをやることっていいなって思った。透明になったような感じでとてもよかった」「ずっと無心で描いていて、リラックスして眠くなった。こういう風にリラックスするのも大切だなと気付かされた。教室中に鉛筆の音だけが響いていて、すごく良い雰囲気だと思った」「黙々と、静かに作業していて、何か自分がどこにいるのか、分からなくなってしまった。葉の形が出てくるとそれをもっとはっきり見えるようにしたいと探求している自分がいた」「周りのことを考えないで静かに板と向き合って作業できて楽しかった。たまには心を落ち着かせることも大事だと思った」「集中力はないと思っていたけど一人の作業ができた。成長を感じた(自分に)」などなど。



2021年7月2日(金)に3年生のみなさんと。



2022年2月4日(金)に1年生、2月8日(火)に2年生のみなさんと。

「身体からかんじる」



2021年11月30日(火)に2年生のみなさんと。

2年生の2回目は身体（からだ）のワーク。「ふれる」をテーマに今年もダンサーの上村なおさんと実施しました。内容を説明すると長くなりますので、生徒の感想から想像してみてください。「身体をつけて目を閉じると少し触ってもしっかりと触っているような感じがした」「なぜ体温が他の人や場所に移るのか不思議に思った。指先から始まって身体を使うのはダンス表現に似ていて面白かった」「二人の時は楽しかったけど、一人になったら寂しかった」「孤独という思いをあらためて体験し、いつ自分が孤独になるかわからないと思った。人の温もりを感じたい」など、みんなの感受性にビックリです！

「ギミー・シェルター」

これまで3年生最後のACTでは、クラスでひとつのダンボールハウスを作ってきましたが、一昨年からは「一人ひとつ、自分にとって居心地の良い場所＝シェルターをつくらう」という内容に。シェルターと言われると「危険な時の逃げ場」というイメージかも知れませんが、そこは「安心できる場所」でもあると言えます。自分の置かれている環境がいつも安心できるとは限らないけれど、自分のためだけの小さなスペースなら工夫次第でつくれそうじゃない？という問いかけです。個々のスペースにゆとりがある安心感の中で、自由度の高い活動をしていました。



2021年10月29日(金)に3年生のみなさんと。

「ふちどって！」



2021年11月26日(金)に3年生のみなさんと。

1年生の2回目は自分と向き合うソロワーク。ある図形をオイルパステルで丁寧に何重にもふちどっていきます。最後に全員の作品を黒板に並べて鑑賞。同じ形をただふちどるだけの作業なのに同じような作品は1つもありませんでした。それを見た生徒たちは「一人ひとりが全然違うなと思った。近くで見ると遠くから見るのとでは見え方が全然違った」「今の自分と過去の自分も違う個性を持っていて、成長したから得られるもの、逆に未熟だから解ることもあるんだなと感じました」「今日はやったことは自分の中のものがそのまま出たように感じました」などの感想を書いてくれました。

「りんごの量感画」



2021年7月6日(火)に8組のみなさんと。

8組の1回目。1つずつ赤いリンゴをもらって、表面を観察したり、手のひらで形や手触りを感じたり、匂いをかいだりしながら、りんごの味の想像を果肉として丸く描いていきます。その後、さっき描いた丸い「感覚のリンゴ」の上に皮を描いていきます。まあくまあく。細かいところもよく見て。仕上げにもう1回リンゴの形をよく見ながら、絵を切り抜いて、台紙に自由に構成。サインをして完成。最後にみんなの作品を黒板に貼って鑑賞会をしました。赤いリンゴの内側には自分が想像した味も描かれている。誰にも見えないけれど、確かにそこにあるものは、あなただけのもので、あなたがいるから、そこにあるもの。

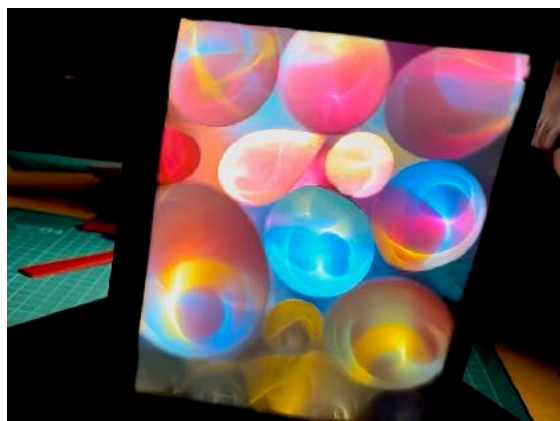
「プチ・メタリック・パンプキン」

8組の2回目は造形。感覚的にとらえたかぼちゃ(=プッチーニ)を自由に形にしていきます。まず、自分で選んだかぼちゃをよく観察します。そして新聞紙をクシャクシャに丸めたものを組み合わせて気に入るひとつの全体をつくります。その後、気になる部分に粘土をつけて、割りばしペンで線や穴をあけるなど変化をつけます。最後にアルミホイルのヘタをつけて、色和紙の小片を自由にペタペタとつけて完成。日常の中にふと立ち止まるように、知っているようでよく知らないものを観察して再-発見をし、それを形にしてみる。そこにちょっとした達成感や感動があるといいなあと思いながら実施しました。



2021年10月12日(火)に8組のみなさんと。

8組3回目は3月11日実施! (...予定)



「光の工作 ~ アカルイミライ」

おわりに

最後にある3年生が書いてくれた「ギミー・シェルター」の感想を引用します。

「最後のACTということでいつも以上に楽しめたと思う。設計図なんか書かずに頭に浮かんだアイデアをすぐに実行して、試行錯誤を繰り返して、自分の納得いくシェルターを作れたと思っている。周りよりクオリティは低かったかも知れないが、自分が納得できたのでそれでいい。3年間ありがとうございました。この先の旅路にどうか光あれ!」

こちらこそありがとうございました。
みんなも光が射す方角へ歩いていってね!